

「生田緑地マネジメント会議」準備会での内容を、お知らせします。

「生田緑地マネジメント会議」の設立に向けた第2回準備会が、平成23年12月14日（水）に開催されました。当日は、全員が生田緑地に集まって、生田緑地の現在の状況や各団体等の活動の場などを視察し、そのあと、岡本太郎美術館において生田緑地マネジメント会議の目的や進め方などについての意見交換が行われました。

●●第2回「生田緑地マネジメント会議」準備会(視察)の概要●●

生田緑地の現状や互いの活動場所・活動状況を学ぶために、初冬の日、生田緑地内の様々なポイントとなる地点を、準備会のメンバーで歩いてまわり、各団体から説明を聞く視察が行われました。



【ばら苑】

小田急向ヶ丘遊園の閉園に伴い、園内に整備されたばら苑を川崎市が引き継いだもので、その概要について事務局より説明が行われました。

【初山地区～水生植物観賞池】

初山地区～水生植物観賞池では、「飛森谷戸の自然を守る会」から、活動状況について説明がありました。



●視察の行程●

生田緑地東口

ばら苑(向ヶ丘遊園跡)

初山地区～水生植物観賞池

あじさい山

中央広場～県の木見本園

日本民家園～枳形山

ホタルの里

奥の池

岡本太郎美術館

【あじさい山】

あじさい山では、「雑木林を育てる会」から活動状況について説明がありました。



【日本民家園】

日本民家園では、「炉端の会」と「民技会」から活動状況について説明がありました。



【ホタルの里～奥の池】

ホタルの里～奥の池では、「かわさき自然調査団」から、活動状況について説明がありました。

●●第2回「生田緑地マネジメント会議」準備会(意見交換)の概要●●

生田緑地内の視察のあとは、岡本太郎美術館で意見交換を行いました。参加者からは「マネジメント会議の目的とは何か」、「これまでの植生管理協議会や管理運営協議会とマネジメント会議との違いは何か」、「ルールとはどういうものか」など、活発な意見交換が行われました。



意見交換の様子

「生田緑地マネジメント会議」準備会で出された主な意見

●会議の目的・役割・進め方について●

「マネジメント会議のイメージはこういうもの」というものを、具体的な例を挙げて、説明してほしい。

マネジメント会議をどうするのか未だによく分かっていない。整備構想で「将来の生田緑地でこういうことをやろう」といったことを考えたが、何が不十分で何が問題となっているのか。

最初に本題に入り、色々と検討した上で現地を見るのであれば分かるが、そうではなく現地調査をやっても仕方ない。一緒に歩いた方も、何を見たら良いのかを分かってないと思う。

今日、皆さんと一緒に生田緑地内を歩いて、改めて各団体の活動の様子が分かった。

私も生田緑地整備構想、基本計画、管理計画の策定に参加してきたので、「また同じようなことをする」という印象はある。しかし、新しい方が増え「色々な活動団体があるのが初めて間近で見られた」という感想があることにも目を向けるべきである。

コミュニケーションが取れる状況になってきた段階で、新しい主体、学生や商店街が加わっているので、ワークショップはある程度やっても良いと思う。

幅広い考え方はまとまらないし、そのあたりを行政が主導を取り、意見集約しながら議論できるようにしていかないと難しいと思う。

●2協議会との違い・価値観の共有について●

現状の問題について、管理運営協議会と植生管理協議会で今、何をやっているかを説明することが必要なのではないかと。

管理運営協議会と植生管理協議会の場で何が決定され、どのような権限を持ち、それが活動団体の活動にどう結びついているのか。

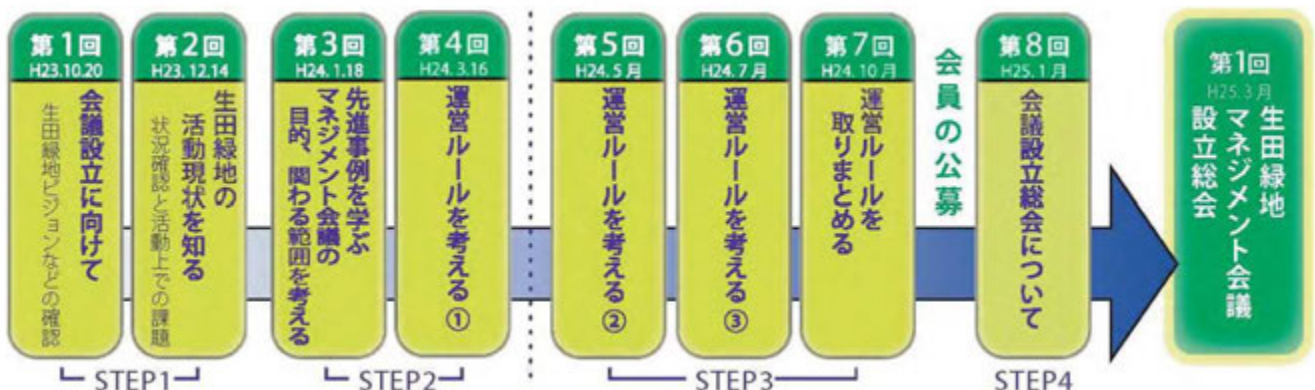
生田緑地にはいろいろなグループ、団体があるが、それとこのマネジメント会議はどのような違いがあるのか。

植生管理を巡って議論しなければいけないと思っている。一つは色々な主体が関わるときに意志決定のプロセスを大事にしていかなければいけない。また、元々価値観の違う主体が一緒に何かをしていくことの難しさ。さらに、自然を大事だと思ふ立場と公園を使うという立場とが価値観を共有すると、「守る」ということ自体ができなくなってしまう。違う価値観を持ちながら、一緒に何かをしていくことは必要だと思うが、価値観の共有で守ることができなくなってしまうのであれば、価値観を共有することが良いことかどうか迷ってしまう。



意見交換の様子

「生田緑地マネジメント会議」準備会では、今後は下記のような内容で会議を開催する予定です。



●発行・お問い合わせ先：川崎市総合企画局 公園緑地まちづくり調整室

TEL：044-200-3632 Fax：044-200-3540